

このあるぶす越は、奈波烈翁の戦争の歴史の中で最も名高い一でありまして、所謂精神一到何事不成といふ格言を、よく顯はした實例であります。

いそつぶ物語

其二十七 農夫と鶴

農夫が、畑を造つて種をまくと、いつでも大勢の鶴がかたまつてやつてきて、畑を荒らして行きますから、或日網を張つて一度に、澤山な鶴をいけどりました、所が其中に一羽の鶴が居て、一本の脚を網で折られてつかまりましたが、一生懸命に命乞をします。

「御主人様、どうか助けて下さい、此通り私の脚は一本折れて居ます、可愛相じやありませんか、おまけに私は鶴じやありません、鶴と申して、實

は性質の立派な鳥です、卿私かどれ程両親に孝行だかといふことも御存じでせう。虚とお思ひなら、一寸私の羽をむら下さい、鶴などは大變な違じやありませんか」

そうすると、農夫は大きな口を開いて笑ひ出した。

『なる程、お前のいふのは皆尤もな話だ、然し己はそんなことは知らない、たい鶴といふ盗人どもと一所にお前をいけどつたのだから、お前を鶴と一所に殺す丈のことだ』

といつてとうとう殺して仕舞ひました、「羽のある鳥は何時も一所に群れて居ます」

其二十八 山から鼠

何時でしたか、どこかの山が大變に荒れ出して、あちこちに其響き聲が聞こえたので、何事かと思

つて大勢の人々が方々から集つて来て、誰も彼も心配さうな顔附で、何れ大變な災害でもある事だと待ちかまへて居ると、豈計らんや、一匹の鼠が這ひ出して來ましたとさ。

「何でもない事に大騒ぎをするものでない」

其二十九 熊と狐

ある時熊が、自分が大變な仁者だといつて自慢しました「何だつて、一切の獸類の中で、人間に取つては、乃公ほどやさしい者はない、乃公は死んだ人間にさへ口を觸れないからなあ」すると狐が側で聞いて居て、にこ／＼しながら熊に申しますには、「ハ、ハ、ハ、一體ならば、生きた人間を食はないで死んだのを食ふといゝのだ」

其三十 龜と鷺

或時に、一匹の龜が「さもだる相に脊中を日には

しながら、水鳥に向つて、誰も己に飛び方を教へてくれる人がないと言つて、大變に自分の不幸な境遇をこぼしました。すると一羽の鷺が側にやつて来て、つく／＼と龜の悲を聞いて居ましたが、やがて、若し龜をつかんで行つて、高く空中を飛び廻はつてやつたら、褒美に何を呉れるかと聞きました。そこで龜が申すには、「そうして呉れば、僕は海の中の一切の財産を上げる」すると、鷺は「じゃー、僕が飛び方を教へてやる」といつて、すぐ、爪にひつかけて、大方雲の中までも飛んで行きましたが、やがて、いきなり爪を離すと可愛相に龜は、高い峻い山の上に落ちて、甲も何もぐた／＼に碎けました、死ぬる間際になつて、龜は次の様に申しました、「嗚呼、僕がこんな目に遭ふのは當然だ、一體地面の上で、やつと歩き廻

はることの出来る僕の身に取つて、羽だの雲だのがあつた所でどうなるもんか」

「もし人間も、自分の望みを皆遂げると、屢々、滅亡しなければなるまい」

一口ばなし

牛乳と牛肉

牛乳は飲むが、牛肉は食へないといふ人に向つて何故だといつて聞いたたら、其人の云ふには、

親の乳を飲んでも、親の肉は食ふに忍びぬと同じことだ。

かみなりおこし

常陸山と梅が谷と連れ立つて、或村を通つて居つた所が、俄に雷が落ちて、そこいらの電信柱をうち倒したから、二人の大關がよつて、一生懸命に

起さうとしたが、どうしても起されない、そこへ一人の小さな職人体の男が来て、譯もなく起したので、不思議に思つて、何者だと聞いたたら私がかみなりおこしの職人ですと答へました

簡易英語

(1) Water 水 (2) Grass ガラスのグラス

Bring me a glass of water.

水を一杯持つて来て頂戴

Bring me an ink and pen.

インキとペンとを持つて来て頂戴